

健康寿命延伸に向けた取組の実施案に対する 意見の概要と札幌市の考え方について

1 パブリックコメントの実施概要

意見募集期間

令和6年12月16日（月曜日）から令和7年1月20日（月曜日）まで（36日間）

意見の提出方法

札幌市公式ホームページWEBフォーム、電子メール、郵送・FAX・持参

資料の配布・閲覧場所

- 保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課（札幌市役所本庁舎3階）
- 市政刊行物コーナー（札幌市役所本庁舎2階）
- 各区役所総務企画課広聴係
- 各区まちづくりセンター
- 札幌市公式ホームページ

※<https://www.city.sapporo.jp/koreifukushi/kenkoh/publiccomment.html>

2 パブリックコメントにおける意見の内訳等

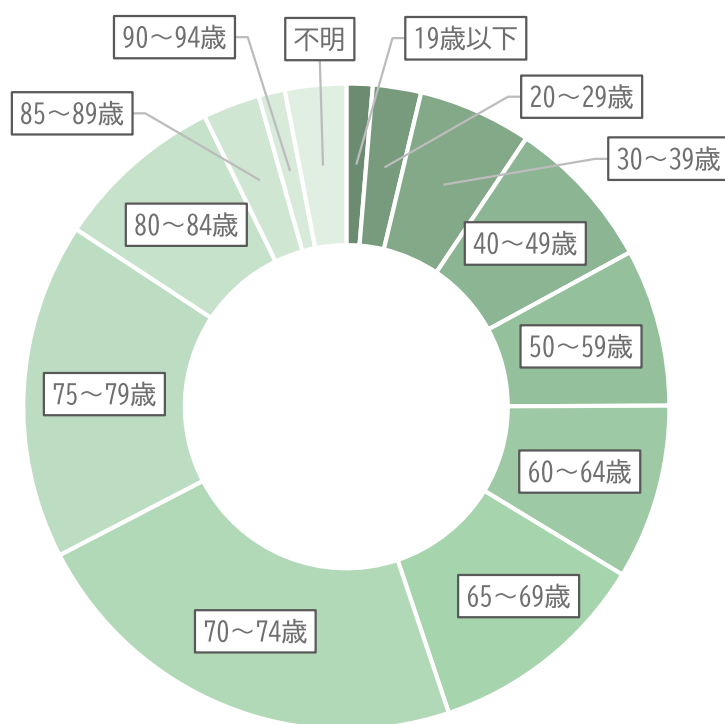
意見総数

457件（WEBフォーム267件、電子メール34件、郵送・FAX・持参156件）

※同一人から複数回送付された意見はまとめて1件として集計しています

※市外在住者からの意見（7件）は総数から除外しています

意見提出者数（年代別）



年代	件数
19歳以下	6件
20～29歳	11件
30～39歳	26件
40～49歳	35件
50～59歳	36件
60～64歳	40件
65～69歳	51件
70～74歳	103件
75～79歳	77件
80～84歳	39件
85～89歳	13件
90～94歳	6件
不明	14件
総計	457件

○年代別にみると、件数としては70～74歳からの意見が最多となりました

○70歳未満の市民からの回答割合が4割を超える結果となるなど、幅広い世代から意見をいただくことができました

意見提出者数（居住区別）

中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	不明	総計
54件	48件	41件	66件	46件	60件	24件	28件	27件	39件	24件	457件

意見分類の考え方

○それぞれの意見は、敬老パスに対する意見と（仮称）健康アプリに対する意見の2つの観点から分類しています

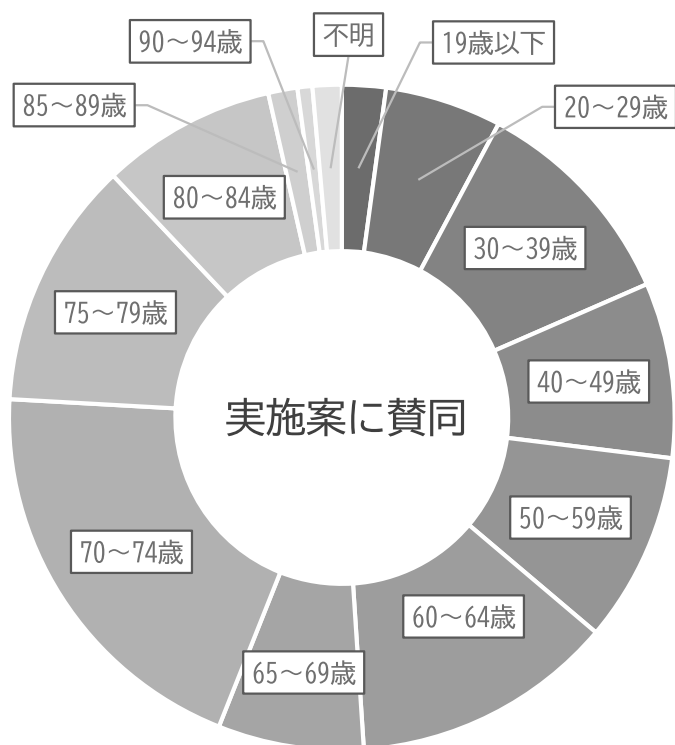
○敬老パスの見直しに対する意見は、以下の考え方に基づいて分類しています

- ・ 実施案に賛同……実施案（敬老パス制度の見直し案）に賛同しているもの
- ・ 現行制度を維持…現行制度の維持・拡充を求めているもの、実施案に一部でも反対しているもの
- ・ 現行制度を廃止…現行制度の廃止を求めているもの

3 敬老パスの見直しに対する主な意見

敬老パス制度の見直しに賛同する意見（141件）の分析

敬老パス制度見直しの実施案に賛同する意見は、幅広い世代から寄せられており、70歳以上の年代がその半数近くを占めています



年代	意見数
19歳以下	3件
20～29歳	8件
30～39歳	15件
40～49歳	12件
50～59歳	13件
60～64歳	18件
65～69歳	10件
70～74歳	28件
75～79歳	17件
80～84歳	12件
85～89歳	2件
90～94歳	1件
不明	2件
総計	141件

敬老パスの見直しに賛同する意見の抜粋と市の見解

- この制度が施行された当時とは状況が変わってきており制度の見直しは必須だと思います。（30～39歳）
- 時代状況、札幌市の財政事情、高齢者の増加等、詳細なデータを示しての内容は理解でき、段階的に見直しを計ることは賛成である。（70～74歳）
- 今敬老パスを使う人が昔納めたのと同じ金額なら、払うのも納得できる。私の祖父もよく公共交通機関を使い出かけ敬老パスの存在はありがたいので、敬老パスはなくせずに、敬老パスのチャージ上限額やチャージする本人の負担割合を増やすのには賛成する。（20～29歳）
- 私は負担増加に賛成します。高齢者として一定の負担をすることは当然で、しかも現在は優遇されすぎている気がします。（75～79歳）

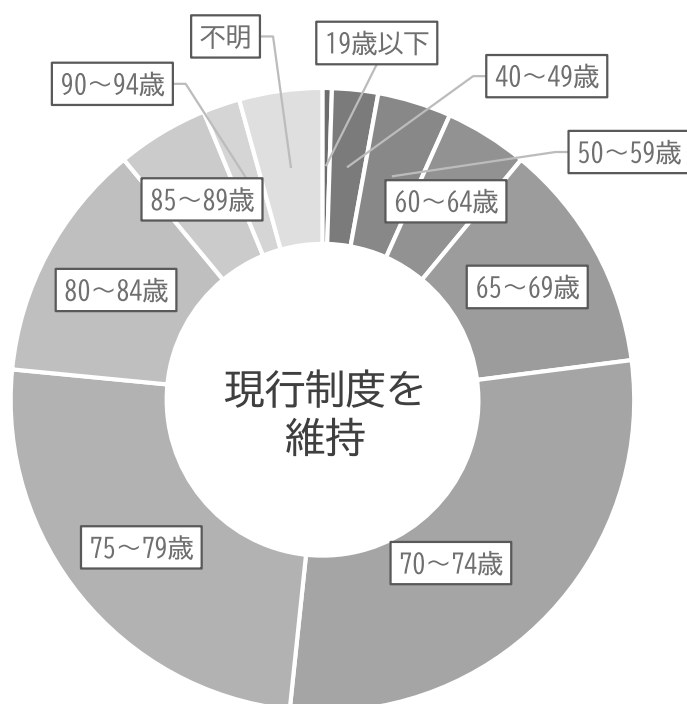
【市の見解】

実施案は、現役世代に対しては、現在敬老パス制度を利用されている方が現役だった頃に負担していた金額と同水準のご負担をお願いするとともに、高齢世代に対しても一定の見直しにご理解をいただく内容で、持続可能な仕組みとして提案をさせていただいたものです。

3 敬老パスの見直しに対する主な意見（続き）

現行の敬老パス制度を維持すべきとの意見（209件）の分析

現行制度を維持すべきとの意見の7割以上は70歳以上の年代が占めています



年代	意見数
19歳以下	1件
40～49歳	5件
50～59歳	8件
60～64歳	9件
65～69歳	25件
70～74歳	60件
75～79歳	52件
80～84歳	26件
85～89歳	10件
90～94歳	4件
不明	9件
総計	209件

現行の敬老パス制度を維持すべきとの意見の抜粋と市の見解

○財政事情を考慮すると、見直しはやむをえないと思うが、自己負担割合は一律30%にできないか。（70～74歳）

○自己負担金額を50%にすることは反対。（40～49歳）

【市の見解】

自己負担割合については、他の政令指定都市の状況を参考にしつつ、子ども料金が半額であることも勘案して、見直しを行うこととしています。

自己負担割合を軽減する場合、年齢やチャージ上限額の更なる見直しを進めなければなりません。

○個人的には年齢を75歳に引き上げるのはいかがでしょうか。（60～64歳）

○上限4万円はやむを得ないにしても、対象年齢を75歳に引き上げる案には賛成できません。（70～74歳）

【市の見解】

対象年齢については、制度開始時から平均寿命が10歳程度上昇していることや、国の法改正により定年年齢の60歳から65歳への引き上げが義務化されることに鑑み、75歳へと引き上げることとしています。

対象年齢を維持した場合、他の要素の更なる見直しを進めなければなりません。

3 敬老パスの見直しに対する主な意見（続き）

現行の敬老パス制度を維持すべきとの意見の抜粋と市の見解（続き）

○半額補助にした場合の利用限度を4万円に引き下げるとは意味をなさず、現行の7万円のままで構わないはず。（70～74歳）

○7万円より敬老パスの上限額を減らすことには同意できません。（50～59歳）

【市の見解】

チャージ上限額については、現行の敬老パス制度利用者の多くが4万円以下の利用である実態を踏まえて、見直しを行うこととしています。

チャージ上限を維持した場合、他の要素の更なる見直しを進めなければなりません。

○敬老パス制度の趣旨を踏みにじる改悪には断固反対する。（70～74歳）

○敬老パスの利用が順調に増加しているため、札幌市の負担が増加するのは当然（75～79歳）

○無料パスを望みますが、当面は現行の敬老パス制度を維持するよう要望いたします。（70～74歳）

○「敬老パス」は現行制度を維持すべきです。（40～49歳）

【市の見解】

敬老パス制度を、現行の形のままで継続することは、制度を支える世代の負担、市の財政面を考慮すると困難であるため、一定の見直しを行ったうえで制度を存続することとしています。

○基本的に、現在の敬老パスを存続して、よりよく利用できるようにJRやタクシーにも拡大してください。（75～79歳）

○敬老パスを使うことで、交通や買い物が活発になり、経済が活性化します。JR・タクシーにも使えるようにしてほしいです。（70～74歳）

○敬老パス存続拡充を求めます。（85～89歳）

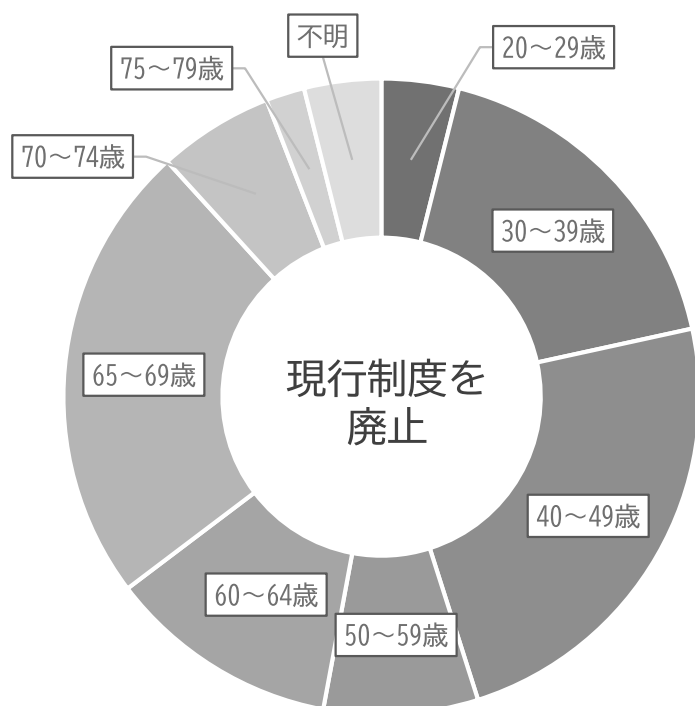
【市の見解】

現行の敬老パス制度をJRで利用可能とすることについては、地下鉄・バス・市電に限定して利用できるSAPICAをベースとした敬老ICカードと、SuicaやKitacaとは仕組みが大きく異なること、全国で相互に利用できる交通カードとの調整が求められる可能性があることなどから、実現は困難です。また、タクシーについても、市内を走行する全ての車両に関連設備を導入することは困難です。

3 敬老パスの見直しに対する主な意見（続き）

現行の敬老パス制度は廃止すべきとの意見（51件）の分析

制度そのものを廃止すべきとの意見の8割以上は、70歳未満が占めています



年代	意見数
20～29歳	2
30～39歳	9
40～49歳	12
50～59歳	4
60～64歳	6
65～69歳	12
70～74歳	3
75～79歳	1
不明	2
総計	51

現行の敬老パス制度は廃止すべきとの意見の抜粋と市の見解

- すぐに廃止することは現実的ではないと思うが、将来的には廃止すべき。その分の予算を子育て支援なり除雪対策なりにあててほしい。（30～39歳）
- 今の高齢者は騎馬戦方式で複数人が一人の高齢者を支えてきたが、これからの若者は肩車方式で一人の若者が一人の高齢者を支えていく時代となることから若者の将来の負担を少しでも緩和させるため、敬老パスの廃止が将来の多くの札幌市民の幸せになる。（70～74歳）
- この制度は基本廃止すべきだとおもいます。（70～74歳）
- 敬老パスは制度自体を廃止すべきだと思います。（40～49歳）

【市の見解】

現在、敬老パス制度を利用されている方からの不安の声にも配慮し、一定の見直しを行ったうえで制度を存続することとしたものです。

3 敬老パスの見直しに対する主な意見（続き）

その他の意見（56件）の抜粋と市の見解

- 脱炭素化に向かうなら、時差式信号機を矢印式信号機にしましょう。渋滞緩和で排気ガス削減になります。（70～74歳）
- JRのキタカを利用してJRや地下鉄やバスを利用しています。エスコン行くとサピカ利用出来ませんとアナウンス入って、戸惑っている人見かけます。システム上難しいと思いますが、なんとかありませんか？（60～64歳）

【市の見解】

いただいたご意見は、今後の施策の参考とさせていただきます。

4 （仮称）健康アプリの導入に対する主な意見

（仮称）健康アプリについて触れられていた意見は169件でした

アプリの導入に期待する意見（39件）の抜粋と市の見解

- 健康アプリをととても楽しみにしています。毎日コツコツ歩いたり、友人に会ったり、健康管理もできる。健康に関わる情報を市から発信していただきたい。（70～74歳）
- 健康アプリの取組はまさに健康寿命の延伸に直結した制度なので納得感があります。（19歳以下）
- 健康アプリについては情報が少なすぎて分かりませんが、一般健康診断（中略）歩いた歩数に対するポイント付与等は費用対効果が見込めると思います。（65～69歳）
- 既に健康アプリの試作が有るのでしたらモニターをやってみたいと思っています。（75～79歳）

【市の見解】

健康アプリが多くの市民に利用され、楽しみながら健康づくりに取り組んでいただくことができるよう、アプリの機能面だけでなく、例えば民間企業との協働によりアプリを利活用できる場面を充実させるなど、運用開始に向けて取組を進めてまいります。

アプリの利用に対する不安の意見（25件）の抜粋と市の見解

- デジタル化が急がれているが、スマホ保有率とアプリ等の活用とは違いがあります。高齢者の実情を理解した制度を考えて欲しいし、そうあるべきと。（70～74歳）
- 現在の老年世代においてはスマートフォンがまともに使える人はあまり多くないというのもあり時期尚早なのではないかと思います。（20～29歳）
- 健康アプリと健康寿命延伸の明確なエビデンスは確立されていません。健康アプリの健康寿命延伸効果が不明確である以上、このアプリは市民に強制するのではなく、希望者の任意参加とすべきです。（70～74歳）
- 果たして70歳の方がアプリを理解して自分のスマホで使えるだろうか。（65～69歳）

【市の見解】

スマートフォンの利用率は9割を超えていますが、とりわけ高齢者の中には使い慣れていない方がいることも事実であり、そのような不安の声を踏まえ、敬老パスを見直したうえで存続させることとしています。

あわせて、導入前のモニター運用により実際にアプリに触れていただく機会を設け、意見をアプリに反映させるほか、スマホ教室の開催を検討するなど、利用者向けのサポート体制を整えてまいります。

また、アプリの効果検証にあたっては、大学等の研究機関と連携するとともに、アプリからどのようなデータを収集・分析すべきかなどについても、学術的な観点を踏まえた検討を重ねてまいります。

アプリの周知・広報に対する意見（9件）の抜粋と市の見解

- アプリが果たしてどのくらいの市民に認知されるのか。テレビやラジオ、ポスター、郵送など、しっかりと市民に周知してダウンロードを促すべきだと思う。（50～59歳）
- 具体的な事業とポイントがわかるように提示してください。（65～69歳）
- どのような活動でどの程度のポイントが付くかイメージしか示されていないが、例示されている内容ではかなりハードルが高い。（75～79歳）

【市の見解】

健康アプリについては、運用開始に向けた開発を進めているところであり、令和7年度から様々な手法による広報活動を行い、ポイント付与の仕組みについても、導入前のモニター運用により市民の意見を取り入れながら検討を進めます。

個人情報の取り扱いに対する意見（2件）の抜粋と市の見解

○個人情報を市や業者に管理されることになる。（75～79歳）

【市の見解】

健康アプリにより収集する個人情報は「個人情報保護法」に則り適正に管理・運用します。また、民間企業等、第三者への提供に当たっては、原則本人からの同意が必要（法令に定めがある場合は除く）であり、得られた情報を同意なく提供することはありません。

アプリより敬老パスを優先すべきとの意見（94件）の抜粋と市の見解

○敬老パス制度とアプリは一緒にすべきでない。敬老パスはそのまま存続、年齢も70歳のままにして高齢者が安心して暮らせるようにしてほしい。（70～74歳）

○現行の敬老パスはなるべく維持して欲しいと思います。ポイント制などの複雑な制度は、やめて欲しいと思います。（65～69歳）

○外出支援策の「敬老パス」と、「健康寿命延伸のアプリ」は全く別の施策です。高齢者が使いやすく、外出できて良かったと思える制度の「敬老パス」を残して頂きたいです。（75～79歳）

【市の見解】

健康寿命の延伸に向けた取組は極めて重要との考えから、「歩く」「人と会う」「健康管理」などの活動に見える化し、健康を高めるための自発的な取組に繋げるため、アプリの導入を進めることとしたものです。

そのうえで、アプリの利用に対する不安の声と制度を支える世代の負担、市の財政面を考慮し、敬老パス制度についても、一定の見直しを行ったうえで存続することとしています。

【担当】

札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎3階

電話：011-211-2976 ファクス：011-218-5179